

環境監視結果の概要について（案）

I. 環境監視結果〈大気環境〉の概要について

1. 環境監視計画及び調査の概要

環境監視計画及び調査の概要については、資料－ 2－1 p1～9 に示す。

大気質のうち一般環境大気質として窒素酸化物（二酸化窒素、一酸化窒素）、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、道路環境大気質として窒素酸化物（二酸化窒素、一酸化窒素）、浮遊粒子状物質、及び、建設作業騒音、道路交通騒音、道路交通振動の各項目について、環境監視計画に基づき調査を実施した。

環境保全措置については、現地での確認調査を実施した。

前回の第 4 回環境監視委員会以降、秋季：H21. 11、冬季：H22. 1 に調査を行っているが、冬季については現在調査結果を整理中であり、環境保全措置については現地調査を H21. 12 に実施した。

よって、今回は、前回結果整理中であった夏季：H21. 8 と秋季：H21. 11 の調査結果について報告をするものである。

なお、道路沿道大気質及び道路沿道騒音の調査地点のうち羽田三丁目 3 番は、マンション建設工事が実施されているため、H21 年度夏季及び秋期調査においては、対象とする道路沿いに約 80m 移動した羽田六丁目 1 番で調査を実施した。

2. 環境監視結果の概要

1) 大気質：資料－ 2－1 p12～16

一般環境大気質については、資料－ 2－1 p12～13 に示す。各項目について、環境管理目標値である環境基準値以下であり、過年度の平均値と同程度もしくはそれ以下であった。

道路沿道大気質については、資料－ 2－1 p14～16 に示す。各項目について、環境管理目標値である環境基準値以下であり、過年度の平均値と同程度もしくはそれ以下であった。

2) 建設作業騒音：資料－ 2－1 p17～20

建設作業騒音については、時間率騒音レベル（ L_{A5} ）の値は、いずれの地点でも東京都環境確保条例の指定建設作業の規制基準（80dB）を下回っていた。

3) 道路交通騒音：資料－ 2－1 p21～25

道路交通騒音については、東海三丁目1番（国道357号線・首都高速湾岸線）において環境管理目標である環境基準を超過しているが、平成19年3月の工事着手以前より既に超過している状況であった。また、羽田五丁目3番においては、工事着手以前に環境管理目標を超過していた時期があったが、工事着手後の調査においては、環境管理目標を下回っていた。

なお、同時に確認した交通量については、ほぼ横ばいの傾向にあり、また、夏季、秋季に確認した工事用車両の交通量については、全体の交通量に占める割合が1%以下であった。

4) 道路交通振動：資料－2－1 p26～29

道路交通振動については、全ての調査地点において環境管理目標である要請限度を下回っていた。

5) 環境保全措置：資料－2－1 p31～32.

環境保全措置については、実施状況について現地確認調査及び資料確認調査を実施した。当該事業の実施においては、アセスの段階で提案された項目について適切に実施されていた。

II. 環境監視結果〈水環境〉の概要について

1. 環境監視計画及び調査の概要

環境監視計画及び調査の概要については、資料－2－1〈別冊-水環境〉 p1～5 に示す。

流況、工事の実施に伴い発生する濁り（日々の濁り監視）、水質、底質、水生動物として動物プランクトン、底生生物、魚卵・稚仔魚、魚介類、付着生物、陸生動物として鳥類、水生植物として植物プランクトン、付着植物、陸生植物として塩沼植物群落、多摩川河口干潟生態系及び人と自然の触れ合いの活動の場の各項目について、環境監視計画に基づき調査を実施した。

前回の第4回環境監視委員会（平成21年9月7日開催）以降、秋季：H21.11、冬季：H22.2 に調査を行っているが、冬季については現在調査結果を整理中である。よって今回は、夏季：H21.8 と秋季：H21.11 の調査結果について報告をするものである。

2. 環境監視結果の概要

1) 流況：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p6～15

H20 冬季（H21.1～2）、H21 夏季（H21.8～9）にかけて行った調査結果を整理し、併せてH19 夏季（H20.8～9）及びH19 冬季（H20.1～2）に実施した調査結果も示した。

流況については、H20 夏季の護岸概成時以降、滑走路に沿う流れが確認されている。

2) 日々の濁り監視：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p16～18

各地点において、降雨や河川の影響を受け、大きく変動する傾向にある。上層（海面-0.5m）、中層（海面-5.0m）ともに、ほぼ平均的に推移し、下層（海底+1.0m）は、地点による変動の幅が大きい傾向にあるが、平成21年7月1日から平成21年12月31日までの監視期間中、環境管理目標値超過は、見受けられなかった。

3) 水質：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p19～37

各項目については、過去の調査と同様の傾向にあり、大きな変化は見られなかった。

4) 底質：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p38～41

各項目については、過去の調査と同様の傾向にあり、大きな変化は見られなかった。

5) 水生動植物：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p41～62

各項目については、過去の調査と同様の傾向にあり、大きな変化は見られなかった。

6) 陸生動植物：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p63～65

各項目については、過去の調査と同様の傾向にあり、大きな変化は見られなかった。

7) 生態系（多摩川河口干潟）：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p65～84

干潟での調査項目のうち、底質の結果については、夏季、秋季において過去の結果

と比較して高い値を示している地点があるが、その他の項目については、過去の調査と同様の傾向にあり、大きな変化は見られなかった。

8) 人と自然の触れ合いの活動の場：資料－2－1〈別冊-水環境〉 p84～86

人と自然の触れ合いの活動の場については、水域施設の状況や利用状況について現地確認調査を実施した。その結果、本事業が利用状況等に影響を及ぼしている様子は見られなかった。